教皇のウクライナの 平和のための呼びか け

ウクライナ情勢の悪化を懸念する教皇は、この席で次のようなアピール を行われた。

「ウクライナにおける情勢の悪化の ために心に深い悲しみを抱えていま す。ここ数週間の外交努力にも関わ らず、その状況はいっそう危機的な 展開を見せています。

わたしと同じように、世界中の多くの人々が苦悩と不安を感じています。皆の平和が再び一部の人々の利害のために脅威にさらされています。

神の前で真剣に良心を問いただすよう、政治責任を負う人々に呼びかけたいと思います。神は平和の神、戦争の神ではありません。神は皆の父であり、誰かのものではありません。わたしたちが必要とするのは兄弟であり、敵ではありません。

国家間の共存を破壊し、国際法を軽んじながら、人々の苦しみを増すようなあらゆる行動を控えるよう、関係するすべて当事者たちにお願いします。」

こで、信者の皆さん、そうでなまで、信者の皆さん、でびました。そうけれに呼の別な無分別を無分別を表力の武器、することを表えるの武器、することを表える3月2日、下のの武器、なることを表える3月2日、下のの日まを表えるない。できるが、ようにのいるができなが、ないますができないます。した。」

(バチカンニュースのリンク)

バチカンニュース

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/ Kyoukou-no-ukuraina-no-Heiwanotameno-Yobi-kake/ (2025/12/10)